

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ニチイのほほえみ豊平公園(すずらんフロア)	評価実施年月日	平成21年12月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ニチイのほほえみ豊平公園では、次のような理念を掲げてホームの運営に取り組んでおります。 一人一人の個性輝くホームを作っていきます 社会的責任を認識し、自己研鑽と介護技術の向上に努めます コミュニケーションあつてのケアを実践します 地域との繋がり、共同生活を大切に、社会関係能力の維持、向上に努めます 素適な出逢いに感謝し、共に歩んで行きます	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	企業理念は毎朝の朝礼時に唱和し、ホーム理念はリビングや事務所の目に付く場所に掲示し意識して職務に取り組むように心掛けている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議の際にホーム理念をご紹介し、ご確認いただいている	理念が形骸化しないよう繰り返し、職員・ご家族・地域にお伝えしてゆきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会長、総務部長他、地域に長くお過ごしの方のお話を伺ったり、運営推進会議にご参加いただいている	より連携を深める事ができるように努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームの御近所の方と共に、家庭菜園を行い、収穫をたのしんでいる 又、御近所の方と朝ははじめ、挨拶などをかかさない	運営推進会議の他、地域のイベント、行事等に参加できるよう取り組みたい
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム見学の際に、生活のご相談を受けて、アドバイスをさせていただいている。	運営推進会議の場等で、町内会に提案していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	ホームの長所、改善点を見つけ、運営に活かしている	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	御家族訪問時の介護記録の開示や、要望・意見・アンケートをサービスの質の向上に活かしている	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市役所・地域包括支援センターに定期的に訪問しているが、運営推進会議以外でのホーム来訪には至っていない	今後、研修後などに機会を作り、積極的に関わって行きたい
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修等を通じて学ぶ機会を持ち、ホーム内研修の場でスタッフに伝えている	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	社内・社外研修、ホーム内の会議の場で繰り返し学んでいる	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時、また、その後、疑問点等について説明をおこなっている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の場で意見を聞いたり、ホーム内また社内に苦情窓口を設置している。また、社外の苦情窓口についても契約時に説明している</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>入居者の心身の変化等、状況に応じて電話や来訪時に報告・連絡・相談している</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や来訪時にご意見を伺っており、ケアスタッフへ周知して改善に努めている</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ホーム会議の場等で意見を聞いている。また、必要があれば会社に伝えている</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ご家族が対応できない通院介助や買い物、行政対応、場合に応じて柔軟に対応している</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ホーム内研修の提供等、職員の離職に努めており安定している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内の採用時研修から始まり、社内のキャリアアップ制度の活用や個々のレベルに合わせての研修計画が立てられている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の連絡会やグループホーム管理者の連絡会に積極的に参加して情報交換している</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>専門科による電話での悩み相談等、従業員向けのサービス提供をしている</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>ケアスタッフのキャリアアップ試験等、個々人が目標を持てる取り組みをしている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホーム長やユニットリーダーが面談を実施して職員の話を書く機会を設けている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>運営推進会議他、電話連絡にて話を聞く機会を作っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の段階で本人が必要としているサービスを整理し情報提供している		医療ニーズや福祉用具の検討等、担当ケアマネジャーやソーシャルワーカーに相談している
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	他の入居者との関係を含めて、ホームでの生活に慣れていただく為に、アセスメントにて今までの生活習慣や趣味等を確認している		ご家族の協力が得られる方は(個別対応が必要なとき、ドライブなど)協力をお願いする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	他者を手伝った際は感謝の意を伝えたり、洗濯物たたみ、片付け、テーブル拭き等、個々の能力に合わせてながらお手伝いいただいている		魚のさばき方、味付け、メニュー等を聞き、昔の手馴れた事を学ぶ時間を作っている
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時や行事の際に、ご本人の様子を伝える他、雑談を交えて意思疎通を図れるよう行っている		行事の際のお手伝いや、入居者との交流をしていただいております、更に深めていけるよう努める
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	電話の取次ぎや、通院介助の際の情報共有、センター方式シートの作成依頼を通じて行っている		ご家族と入居者との外食、ドライブ、温泉等、外出の際に情報提供を行っている
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人が来所された折には、来所された事がご本人にとって、どんなに嬉しい事かを伝える。又、コミュニケーションが困難時には、話の仲介をする。		御高齢の方も多いため、来所の際は転倒、その他に気をつける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気が合いそうな利用者間には、積極的に話の仲介をしたりアクティビティを通じて良き仲間となるよう支援している。利用者同士の居室訪問時には、安全確認を適時行う。		滑舌の悪い人、人の輪に入りたくとも入れない人、声の小さい人にはスタッフが仲介し、コミュニケーションをスムーズに行う。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者様が退去された後に、ご家族に会う機会もあり、その折はその後の状態などを伺い、良き関係を保つように努めている。		契約終了後も移転先から情報を得られる物は取り入れ、次のケースに役立てる。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントや、日常の会話、様子などから御本人の意向を察知する。又、ご家族からの情報も参考にしている。認知症状が重度の方は、会話を簡単明確(2者選択)にし、本人の意思確認を行えるように努めている。		ホーム生活の状態変化を観察しながら、変化する意向に適時、良き対応をしてゆく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にセンター方式の記入を依頼して、アセスメント時に確認できなかった生活歴等の情報を得ている		各自の得た新しい情報を他スタッフに申し送り、アセスメント表への記入などで共有する
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	カンファレンス、モニタリング、介護記録、申し送り、毎日の状態観察などによって各利用者の把握に努めている		必要時、1日の気分状態(24時間変化表)へ記入する
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、モニタリング、介護記録、申し送り、毎日の用紙観察、主治医への相談、御家族の意見を参考にケアプランを作成している		介護計画が画一的にならないよう作成している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	病院退院後、介護保険認定更新、状態の大きな変化後には3ヶ月と限らずにケアプランの見直しをしている		医療的な問題が生じた時には主治医を主として迅速な対応を心がけている
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録の記入、問題とすべき事が生じた時は、すぐにカンファレンスを催し、実践に結びつける。又、ヒヤリハット、トラブル報告書なども参考としている。		他のフロアのトラブル報告、ヒヤリハットなども参考とし、カンファレンスを開いている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	季節毎の行事(花見、敬老会、クリスマス会、お雛様、誕生会、夏祭り等)にボランティアによる踊り、ハーモニカ演奏、食事会、利用者による歌などを行っている。		今後は御家族による意見、ボランティアの方々演奏を増やすなどにネットワークを広げたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア、研修の受け入れを行っている。年に2回、消防署立会いの下、入居者も参加する避難訓練を実施している		日ごろより、民生委員はじめ、福祉関係の方々との交流に努めたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の事業所との情報共有から、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問皮膚科、介護タクシー、福祉用具等を利用している		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会に参加していただき、町内会、家族会を交えて情報交換している		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1度の提携医による往診の他、家族との相談の上で専門医の受診をしている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	症状に応じて、家族との相談の上で精神科専門医の受診をしている		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在、看護職員の配置はしていないが、提携医の臨時往診等、医療との密な連携を取っている。		医療連携加算を加算していないので、今後は会社にも働きかけて看護職員との連携に努めたい
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	お見舞いの際に状況を確認して、退院後の相談を行っている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	電話や御家族来所時に状況変化について報告している		早い段階から主治医や家族と話すように努める
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者の状況に合わせて、かかりつけ医、ご家族と検討している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>介護計画等の情報提供を行い住替えがあっても出来るだけその方に適したケアが継続できるように努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレの声掛けは小声で、入浴時は個別対応、カーテンの利用、個人の記録はイニシャルで書く、来訪者の個人情報のもれを防ぐなどを徹底している</p>		<p>個人情報について定期的に勉強会をする</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>選択の難しい方には2者選択から答えを求めたり、わかりやすい言葉で話しかける</p>		<p>介護度の重い方、自己表現の少ない方にはより理解しやすい言語の工夫、言語以外の表現方法が必要と思われる</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の希望に沿って、食事を自室で食べていただいたり、食事時間が遅れても希望時に対応している。食事拒否時にはゼリー、その他、好きな物を提供している</p>		<p>日ごろより様子観察を行い、希望、願望の掘り起こしに努めたい</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節に合わせた洋服選びを御本人と共に行う。ボタンや服の破損部の繕い、更衣後の衣服着装の確認。美容院は訪問美容を利用。本人の希望を取れいれてパーマ、カットをしてもらう。</p>		<p>年齢、体調、介護度を参考に、毛染め、パーマをおこなっている。(御家族の要望も取り入れている)</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の聞きながら、旬の食材を提供、又献立を紹介し、興味をいだけるように配慮している。利用者の能力にあわせ、テーブル、茶碗拭きなどの家事援助をしていただいている。嚥下状態に応じた食材、刻み食、とろみ剤の使用の食事を提供している。</p>		<p>食材の色、盛り方の工夫を継続したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	10時、3時には、出来るだけ、水分、旬の果物を提供している。誕生会には、糖分をおさえたケーキで楽しんでいただく。		利用者様の介護度に応じた安全なおやつを提供する。水分不足の時は健康状態を考慮しながら、ジュース等も提供することあり。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表をつけパターンを知り、早めの声掛け、誘導している。失敗時には、清拭、必要に応じてシャワーも活用している。		排泄状況に応じて、リハパン使用の中止も試みる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴がいきがいの方は、できるだけ1番に入浴できるよう配慮している。入浴前のバイタルチェック、水分補給などで安全を確保。又、個別対応なので親しみのある楽しい会話をおこなう。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝前のホットミルクの提供(水分、精神安定を兼ねる)。必要に応じ、傾聴することで安眠に導く。睡眠時間を記録し医師へ報告し、状況に応じた対応を支援している。		入居者が好きな音楽を提供し、安眠に導いている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人お一人に合わせて、散歩、唄、塗り絵、ボール投げや家族との自室での雑談の支援をしている		個別の楽しみを支援できるようにアセスメントする
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の金銭管理能力に合わせて、買い物外出時等に金銭使用が出来るよう支援を行っている。		個別の能力に応じて、買い物の機会を増やしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やご家族と協力しての外出を支援している		個々の能力、希望に応じた外出を個別に企画していきたい
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	以前住んでいた団地に介護職員と一緒にいく等の支援を行った		温泉に行けるよう支援したい
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望にて家族からの手紙、電話の取次ぎを支援している		定期的に普段の様子を電話等でご家族へ報告している
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室へ飲み物をお持ちしたり、歓談の場として和室を提供している		来客の訪問時に、日頃の生活の様子をお伝えしている
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	ホーム会議にて勉強会を行い、知識を深めるよう努めている		入居者へのケアについて、細かなカンファレンスを開催しスタッフ間で確認しながら行っている
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中、開錠されており、フロアの施錠も特別な事が無い限り、開錠している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間の定期巡回の他、常時、入居者の所在を把握できるようにプライバシーに配慮して訪室をしている</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>包丁類、洗剤類は鍵つきの棚に収納している。入居者の希望に応じ、ハサミ等の刃物を本人管理されている方もいる</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>外部徘徊発生に備えて、入居者の顔写真を保管している。食べ物は、お餅のみ禁止とさせていただいている。個々の嚥下状態に合わせて、食べ物の形態を変えている。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時のマニュアルがあり、スタッフ間で確認している</p>		<p>任意であるが救急救命講習への参加を促している</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難経路・避難所を掲示している。定期的に消防・避難訓練を実施している</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>個々の予測でき得る事故について、家族に報告・相談している</p>		<p>事故リスクについて、家族や本人の意向とケアの方向性が異なる際は、相談の上、調整している</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>1日2回の血圧・脈・体温測定を実施している。健康チェック表を記入しており、主治医の往診の際に情報を共有している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋等で確認に努め、症状変化時は、主治医に報告している</p>	<p>薬によって、避けた方が良い食物等、主治医に確認している</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分は1日の目標を定めて促している。お米には麦飯も混ぜて便秘予防に努めている</p>	<p>主治医と下剤の使用について連携し対応している</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>口腔ケアの他、毎食前に口腔体操を実践している。訪問歯科診療も希望に応じて、対応している</p>	<p>夜間は義歯洗浄剤を使用して、義歯の清潔保持に努めている</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の嗜好、嚥下能力等の身体状態を主治医と連携しながら提供できるよう支援している</p>	<p>食事形態の工夫の他、手作りゼリーを提供している</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルがあり、介護職員・来訪者へのスタンダードプリコーションを実践している。</p>	<p>衛生チェック表を使用して清潔の保持に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食品衛生マニュアルがあり、調理器具の洗浄・消毒、作り置きは最長2時間まで等、実践している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	道路から玄関まで手すりを設置している。表側にテラスがあり、通りがかりの近隣住民と挨拶をしている		道路沿いのテラスを囲むように樹木が生えており、景観に努めている
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合った植物等を使用した作品を掲示することで季節感が味わえるよう工夫している		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングや玄関にソファ椅子を設置し、入居者同士が雑談時使用している		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	アルバム、仏壇、人形、本人が作ったペーパーフラワー、縫い物セットなど入居者のなじみの物が居室に置かれている		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	1日1～2回の換気を毎日行っている。		本人の訴えの他、巡回時に居室の暖房調整を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>フロアの各所に手すり、ナースコールが設置されている。トイレ床には緑色のタイルが貼ってあり、目印として配慮している。居室はリビングから1直線に伸びた廊下の左右に位置し、迷う事が無いよう配慮されている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>カレンダーや季節の作品作りを一緒に行ったり、ことわざゲーム等、今まで培った力を発揮できる場を提供するよう努めている</p>	<p>入居者が出来る事をより発揮できるような場面を更に見つけ、提供していきたい</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い時は、ベランダのテラスにてティータイムを楽しんでいる</p>	<p>ホーム周辺のゴミ拾い等、活動の範囲を広げていきたい</p>



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○ 毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○ ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○ ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>○ ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

季節に因んだ作品を入居者と作成し、壁に掲示する事で、見て楽しんだり、季節感の認知低下予防に努めている。  
味だけではなく、視覚で楽しめる食事作りに努めており、食材の購入先も場合に応じて多数の中から選んでいる。  
入居者の方の能力に合わせて、居室前に目印のぬいぐるみを置いて、ご自分の居室が分かるよう配慮したり、対応を工夫している

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ニチイのほほえみ豊平公園(はまなすフロア)	評価実施年月日	平成21年12月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ニチイのほほえみ豊平公園運営理念～一人一人の個性輝くホームを作っていきます 社会的責任を認識し、自己研鑽と介護技術の向上に努めます コミュニケーションあつてのケアを実践します 地域との繋がり、共同生活を大切に、社会関係能力の維持、向上に努めます 素適な出逢いに感謝し、共に歩んで行きます	地域の敬老会、高齢者の集い、小さな集いなどに参加し見聞を広げ、理念の再構築に役立てたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	企業理念は毎朝の朝礼時に唱和し、ホーム理念はリビングや事務所の目に付く場所に掲示し意識して職務に取り組むように心掛けている	月1回のホーム会議においても、適時、理念の再確認を行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議の際に、ホーム理念をご紹介し、ご確認いただいている	理念が形骸化しないよう繰り返し、職員・御家族・地域にお伝えしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会長、総務部長他、地域に長くお過ごしの方のお話を伺ったり、運営推進会議にご参加いただいている	隣近所の方々には積極的に挨拶をしている。又、お庭の草木、花を利用者と見学させてもらっている事を感謝しつつ御礼の言葉を伝えている。その時にホーム見学のお誘いもしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	事業所や法人の状況報告を町内会に行っている	運営推進会議の他、地域のイベント、行事に参加できるように取り組みたい
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム見学の際にケース相談を行い、ホームに空き室が無い場合も、地域のサービスに結びつくように努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	ホームの長所、改善点を見つけ運営に生かしている	外部評価のアドバイスの実行、自己評価の置ける評価すべ事柄を通じてホームの状態を再確認、ステップアップを目指したい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	御家族訪問時の介護記録の開示や、要望・意見をサービスの質の向上に活かしている	今後も継続して運営推進会議を開き、アドバイスをいただきたい。又、可能であれば、他のホームの行い方も参考にお聞きしたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市役所・地域包括支援センターに定期的に訪問しているが、運営推進会議以外でのホーム来訪には至っていない	市役所・地域包括支援センターに定期的に訪問しているが、ホームへの来訪には至っていない
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修等を学ぶ機会を持ち、ホーム内研修の場でスタッフに伝えている	御家族に相談をされた場合には、地域包括支援センター等の相談機関を紹介している
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	社内・社外研修、ホームの会議の場で繰り返し学んでいる	初心者などは、虐待とは知らずに行う事があり得るので、今後も引き続き、新人の入社時、その他ホーム会議などでシュミレーションなどを通じて学習していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時、また、その後、疑問点等について説明をおこなっている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場で意見を聞いたり、ホーム内また社内に苦情窓口を設置している。また、社外の苦情窓口についても契約時に説明している。また、定期的に来訪時や電話連絡等で近況を報告しており、その際にご意見をいただいている		御家族との連絡を密に行い、齟齬が生じないよう配慮していきたい
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の心身の変化等、個々に合わせて報告・連絡・相談している		ケアプラン更新時に全体的な利用者様の日常の様子、変化なども伝えている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に来訪時や電話連絡等でご意見をいただいております、ホーム運営の改善に生かしている		意見箱も設置しているが、今までに投票は無い。今後も御意見をこちらから伺うようにしたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議の場や面談等で、意見を聞いている。また、必要があれば会社に伝えている		積極的な意見をもらえるように介護職員の対応を含め、オープンなホームを目指したい
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	突発的な入居者対応や、行事の際の人員増加など柔軟に対応している		パート職員を数名採用しており、臨機応変にシフト調整している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	研修機会の提供等、職員の離職に努めており、人員は定着している		職員間で年齢差があるが、家庭的な職場の雰囲気があり働きやすい。個人間の良きスペースを保ちながら、今後も良き介護を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内の採用時研修から始まり、社内のキャリアアップ制度の活用や、個々に合わせた研修の案内もしており、スキルアップできる機会を提供している</p>	<p>研修を受けた職員がホーム会議で発表し、(プレゼンテーションの学習なども兼ねて)スピーチしてもらい他の職員に意欲的に働きかける</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の連絡会やグループホーム管理者の連絡会に参加して情報交換している</p>	<p>グループホーム同士の見学会なども行い、参考にしたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>電話での相談サービスの他、面談の実施等、取り組んでいる</p>	<p>普段、使用頻度の少ない和室を休憩時間に使用し、介護職員同士の安らぎ空間として使用している。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>ケアスタッフのキャリアアップ試験等、実施している</p>	<p>管理職やケアマネジャー、事務員にもキャリアアップの範囲を拡大すべき</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者やケアマネジャーがアセスメント時に現在の不安等を聴く機会を作っている</p>	<p>初回面談で親しみを持っていただくような会話を心がけてる。又、困り事と同時に得意な事、興味のあることを話題とし信頼関係を築けるようにと心がけている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者やケアマネジャーが内覧時に現在の不安等を聴く機会を作っている</p>	<p>なるべく同じような症例を挙げ、当ホームで安心して過ごせるような会話を。又、ホームで不可能の事が(多額の金銭、貴金属の預かりなど)ある事もお知らせする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の段階で本人が必要としているサービスを整理し情報提供している		ホーム入居の費用、タバコ、暴言、暴力、医療的が限界などについて説明を行う。又、グループホームならでのサービス支援の説明をしている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居に際しては、その方に合わせた理由付けや、他入居者との関わりを考慮し、混乱をしないよう対応している		入居後しばらくは、生活パターンを把握することに注力し、ある程度グループホームでの生活に慣れた頃にサービスの方向性を決めている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者お一人お一人が主役になれる時間を作り、昔の思い出話を聞かせていただく		個人個人に合わせて、お花の水遣りや洗濯物の取り込み、食器拭き等を見守りながら、していただいている
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に来訪時や電話連絡等で近況を報告しており、必要な物や必要なケアを提案させていただき、御家族と検討している		季節の衣替えの相談や受診同行等、ご家族にもケアにご参加いただいている
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族のペースで来訪いただき、ご多忙の時は、こちらから近況報告をしている		介護記録の閲覧だけでは説明できない部分の補足をしている
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に親しかった知人の方も多く、ホームへ来訪されている		かかりつけ医の往診、お寺等の訪問、面会時間の制限なし



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の人間関係を考慮して座る席を決めたり、アクティビティを行う際も常に考慮している		入居者の孤立化を防止するようスタッフが仲介に努めている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も紹介した施設に様子を確認しに行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護職員とケアマネジャーが共同で本人の希望をアセスメントしている		ケアプラン変更時、不穏時、その他適時、雑談、レク、カンファレンスを通して御本人から直接、または様子を見なが本意を模索している
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントツールにセンター方式を使用し、ご家族にも協力をお願いして生活歴の把握に努めている		家族の協力でセンター方式シートを記入いただいたり、来訪時に本人の希望を確認している
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身状態の変化に応じて細かにカンファレンスを開催し、介護職員間の把握に努めている		入所初期、なんらかの精神的変化のある時には、24時間心身の変化表を記入し不穏の原因の一つを探り、解決法を見出す。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護職員がセンター方式シートの記入の一部を行っており、介護計画の作成に活かしている		ケアプラン変更時、あるいは随時、御本人、御家族の意向を伺っている。御家族に入所前後に本人の生活歴、趣味、嗜好、人生のハイライト時代などについて伺っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の作成に当たっては、現状を御家族に伝えて理解を得ている		転倒などのリスクが急激に変化した時には、ケアプランを一部変更し、柔軟に対応している
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は、介護記録に残しており、気付きや工夫等のカンファレンスを行った内容は、個別の経過支援記録、サービス手順書に残し、介護計画の見直しに活かしている		毎日のバイタル、食事、水分量、必要時の排便、排泄回数等について記入、提携医への報告、ケアプランの参考としている。(特に高齢者が多い為、様子観察は密に行っている)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	突発的な受診対応、認定更新手続きのお手伝いなど行っている		外部への遠足、レクなども利用者の状況を考慮し、個別に対応したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年に2回、消防署立会いの下、入居者も参加する避難訓練を実施し、評価をいただいている		今後は地域のインフォーマル資源を協同、活用したい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問マッサージ、訪問歯科、訪問皮膚科、訪問耳鼻科、介護タクシー、福祉用具の選定、ボランティアの来訪など本人の意向に合わせて利用している		積極的に地域のケア連合に参加し情報を得ている
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難事例の発生時に地域包括支援センターに相談し、アドバイスをいただいている		困難事例を解決しながら、普遍的な支援の方法を模索してゆきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	グループホームの提携医の往診、入居前からのかかりつけ医の往診をする方、ご家族が定期的に受診にお連れする方など、その方に応じた医療との連携を行っている		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	精神科専門医など必要に応じて、家族と相談の上で受診対応している		入居後の状況の変化に応じて、主治医やご家族に相談し対応している
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	現在、看護職員の配置はしていないが、提携医の臨時往診等、医療との密な連携を取っている。		現在、医療連携加算を加算していないが、今後、算定する予定の為、連携を図りたい
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	病院の相談員と情報交換し、退院後の協力体制に努めている。		病院への見舞いを適時行い、情報を得る。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	提携医の協力を得て、なるべく早い段階から行っている		医療連携加算算定後に重度化の指針について、再度、ご家族と認識を共有したい
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	重度の入居者について、予測できる事故や医療処置に対して当グループホームの対応範囲を提携医との協力の下、なるべく早い段階から御家族に説明している		早い段階から主治医、家族と話すように努める。又、当ホームにおける医療的処置の限界を説明する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当ホームからの移り住み時には、状況に応じて情報提供書や介護計画を関係者に提供し、継続した支援を受けられるように努めている</p>		<p>当ホームでの生活支援の限界を説明し転居先の利点を報告し、円滑な生活の継続を支援している</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いは介護の基本として徹底しており、介護記録・社内報告書類等には入居者名をイニシャル表記することで個人情報に配慮した対応をしている</p>		<p>排泄、入浴時にプライバシー保護に気を付け対応している。(カーテン、耳元で低く話すなど)</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その方の状態に合わせた選択肢を使い分け、本人の思いを伝えることの支援をしている</p>		<p>意志疎通の困難な利用者には、簡単な言語、2者選択などで確認する。具体的な物品で示すこともより用意である。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務の流れは、大まかにしか設定しておらず、入居者のペースに出来るだけ対応できるように努めている</p>		<p>常に、本人に確認してから、その後の行動、対応を決めている</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月に1度、訪問理・美容の日があり、その他、個別に相談している</p>		<p>御本人、ご家族にパーマ、毛染め、カットの形など確認してから形を整えている。又、外出時の口紅、マニキュア等の好みの色の確認をする</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節の食材を取り入れたり、個々に合わせた食事形態にする工夫をしている 希望に応じて、食器・お盆拭きや片付けをお手伝いいただいている</p>		<p>個々の嗜好に合わせた献立を心掛けている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ホームで提供するおやつその他、本人専用のおやつや飲み物を希望に合わせて預かっている		カロリー制限の方には低カロリーのものを提供。季節に合わせた手作りのおやつを提供している
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を記入し排泄パターンを把握して誘導したり、本人・家族と相談の上、ポータブルトイレの設置をする等、個別に対応している		声掛け誘導によりオムツ類の使用を軽減したい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の好き嫌いや介護負担に応じて介護職員の人数を増やす等の対応をしている 入浴チェック表を使用して、全員が均等に入浴できるように取り組んでいる		個別対応の機会でもあるので、雑談、歌などで心身共にリラックルしていただいている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は定めておらず、個々の状況に応じて就寝している 和室のリクライニングチェアで休息することもできる		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	御家族に手紙を出す為に字を書く練習をする等、その方の力を生かせるよう支援している		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の金銭管理能力に合わせて、買い物外出時等に金銭使用が出来るよう支援を行っている。		個別の能力に応じて、買い物の機会を増やしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	声掛けによって散歩やホーム裏の畑にお誘いしている		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出(外食・パチンコ・お墓参り)、季節に合わせた外出行事を行っている		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り次ぎや、手紙を書く際の支援を行っている		ケアプランの短期目標に文字の練習を取り入れている方もいる。ご本人の possible の限り、御家族等の電話使用を支援し続けたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時に近況の報告、介護記録をご覧いただいている		御家族、親戚、僧侶の訪問の継続、支援を行なっている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	ホーム会議等の場で勉強会を行っている		入居者への対応方法についても、随時カンファレンスを開催してスタッフ間で話し合っている
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠をせず対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室に居る方は、夜間時の定期巡回の他、日中も定期的に声掛けをしつつ、安否の確認をおこなっている		スタッフは常に利用者の居場所確認を行っている(特に徘徊傾向の利用者は必要である)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	精神状態や身体状態を介護職員・家族間で共有し、危険と思われる物については、一時預かる等の対応を行っている		自殺念慮のある方のネクタイ、紐等、刃物類を整理している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	消防署との定期的な訓練を実施している(年2回)、その他、自主訓練も実施している 任意での救急救命講習等、介護職員の参加を促している		転倒可能性、誤嚥等の事故の軽減を図る為、介護職員・家族間で情報を共有し、環境整備や食事形態の工夫に努めている
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルがあり、従っている		自主的な救急救命講習の参加を促していきたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の非常食、衣類を備蓄しており、災害に備えている		地域に継続して協力を呼びかけていきたい
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の起こり得る事故可能性について家族に報告し、情報を共有している		転倒などの事故後には家族に報告、社内報告書提出、カンファレンス等を実施して今後の方策を決めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>1日2回の体温・血圧・脈測定を健康チェック表に記入している 異常が見られた際は、提携医・ご家族に報告している</p>	<p>年長者が多いので一般的な体調変化以外にも気を配る事が大切、毎日の状態を把握しておく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋やインターネットを使用して薬の情報を調べたり、医師・薬剤師に相談している</p>	<p>服薬の処方箋での確認、必要時は提携医へ相談する。日頃より薬についての知識向上に努めたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>乳製品、水分、体操、アクティビティを促して便秘予防に努めている</p>	<p>排便状況を主治医に報告し対応に繋げている</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔清掃、寝る前に義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めている</p>	<p>必要時の訪問歯科、口腔ケアの指導を受けている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>健康チェック表に摂取量を記入し把握に努めている 個々に合わせた食事形態・量にしている</p>	<p>カロリー制限のある方は低カロリーの食事を提供している。ご本人に合わせ消化の良いもの、食べやすい物などを作る。塩分は最低限にしている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルがあり、手洗い・うがい、医療用グローブの使用、食器の熱湯消毒、次亜塩素酸ナトリウムによるトイレ・手摺の消毒をおこなっている</p>	<p>外来者、職員の来訪時にも手洗い、うがいを励行している。</p>



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器・調理器具・布巾は、ジアノック・熱湯消毒・アルペットE等で消毒を徹底している。また、調理後は2時間で廃棄するよう徹底している</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関から道路まで手摺が設置してある。テラスから近隣の方と挨拶を交わしている</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感のある飾り付けを入居者と創作し掲示している</p>		<p>夏場はテラスを利用し、気分転換を行なっている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>和室には、リクライニングチェアが設置してあり、くつろぐ事ができるリビングにソファを設置しており、入居者同士やご夫婦同士で思い思いに過ごされている</p>		<p>入浴の着替え時のベンチ、玄関のベンチ、和室などで個人的な空間をもつことが出来る。又、リビングの窓に椅子を外部を眺めるように置き、プライベートな空間を作っている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内は、備え付けの防災カーテン以外、全て入居者のなじみの物をお持込いただいている</p>		<p>写真、アルバム、人によっては仏壇を置いている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>1日1・2回、換気をおこなって、空気の入替えをしている フロア内の温度調整、居室内の室温調整を細やかにおこなっている</p>		<p>便失禁後の臭気には特に気をつけ換気をおこなっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>フロアの各所に手摺、ナースコールが設置してある</p> <p>夜間時は足元灯で歩行に配慮している</p>	<p>浴室の滑り止めマット、居室内のカーペットに滑り止めにひく。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>能力に合わせて体操の号令を掛けていただいたり、介護職員の対応範囲を統一するように努めている</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>散歩に出て裏庭の菜園にて農作物の成長を見る</p>	<p>ベランダで日光浴、お茶の時間、簡単な体操、歌等を唄っている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

季節に因んだ作品を入居者と作成し、壁に掲示する事で、見て楽しんだり、季節感の認知低下予防に努めている。  
味だけではなく、視覚で楽しめる食事作りに努めており、食材の購入先も場合に応じて多数の中から選んでいる。  
視覚、聴覚が不自由な入居者が複数いらっしゃる為、コミュニケーションの伝達方法や入居者同士の仲介方法を工夫して対応している。